

武庫尋常高等小学校差別事件

公益社団法人 尼崎人権啓発協会 事務局長 三澤 雅俊

1918(大正7)年1月22日、遅刻をした武庫村守部新田の子ども6人と地区外の子ども1人に対し、武庫尋常高等小学校の校長が被差別部落に対する賤称語を用い差別発言をしたことに端を発した事件が起りました。

校長の発言に憤慨した地区の子ども達は、既に登校していた地区の子どもと集団下校し、以後4、5日の同盟休校に入りました。一方事情を聞いた地区の大人達は「とにかく校長に訳を聞こう」と、翌23日に約100人が学校に対し抗議行動を行いました。しかし、校長以下教職員は武庫村役場へ逃げ込み、話し合いもできないまま帰村し、事後の対策を検討していたところへ、所轄の西宮警察署によって70数人が検束され、5、6日の取り調べが続きました。警察は地区の役員に対し、主謀者を出せば他の者を帰宅させると言いますが、地区側は「非は学校側にある」として膠着状態が続きました。

しかし、結局差別発言を受けた子ども達の親が中心となり、5人が主謀者として名乗り出、裁判の結果、懲役2~3か月の刑を受けました。学校側は何の責任も問われませんでした。この5人の中には、事件当日病臥中で、現場に行っていない人がいたといえます。

この事件は、新聞、書物等でも大きく取り上げられました。その後、米騒動への部落民の参加などによって、部落の人々のエネルギーを恐れた政府が、部落改善事業の予算化を行います。こうした国の政策や「全国水平社」の創立にも、少なからず影響を与えたといえる事件でした。(『尼崎部落解放史・本編』『尼崎地域史事典』より抜粋)

1871(明治4)年に「身分解放令」が出され、約50年経った「大正」になっても、なお部落に対する差別があり、この事件のように、部落差別を解消しなければならぬはずの学校現場でさえ、厳しい部落差別があったのです。

人権・ひとこと

8年前、米国に初の黒人大統領オバマ氏が誕生した。演説を聞く度に「さすが超大国の大統領、世界を良い方向に導いている」と感動したものだ。ところが、今年「米国第一主義」を掲げ、その座に就いたトランプ氏は、熟考とはほど遠いツイッターでの表現によって、世界を一喜一憂させている。例えば、中東の国を名指して入国禁止を命じ、反発の嵐を巻き起こしている。これまで米国が主導してきた自由と人権尊重、民主主義を基範とする戦後の国際システムが崩壊するのでは、と不安に思っている。

さて、我が国ではどうか。私たちは、戦後70年間、日本国憲法によって、基本的人権を尊重する平和な社会で生きることができた。しかし今、その憲法を改正する動きもある。どの条文がどう変わるのか。それが私たちの人権とどう関わってくるのか。主権者として他人事ではなく、現憲法をよく読み学習して、日本に生まれて幸せだと思われるような、一人ひとりを大切に人権尊重の国を、子や孫へつないで行きたいと思う。

尼崎市人権・同和教育研究協議会 副会長 寺岡 陽子

編集後記

編集会議の場所が、市役所から教育・障害福祉センター(旧教育総合センター)に変わりました。編集委員それぞれの立場で意見交流し、人権課題を皆様に身近なものとしていただけるように知恵を絞っています。

深井 純志(小学校教育部)
和田 季子(PTA部)
山本 育子(社会教育部)

第102号

尼同教だより

発行：尼崎市人権・同和教育研究協議会

(尼崎市三反田町1-1-1 教育委員会事務局 社会教育課内 TEL4950-0405)

ストレスと共存

情報処理スピードの加速する現代、必要な情報を得やすい反面、大人も子どももゆとりのない忙しさの中で、外的刺激から過度のストレスを受けてしまっていることは少なくありません。食欲不振や過食、不眠、怒りや焦りなど、身体の中にストレスを入れておく器があるとすると、その器が溢れてしまった時、精神的・身体的に様々な症状が現れてきます。

「もしも身近な人がS.O.S.発信をした時、「いつもと違うな」と気づける(見逃さない)社会だといいいね。」今回の編集会議でのそうした話から、市の教育相談担当で活躍されている心理カウンセラー 長谷川 匡代(はせがわ まさよ)さんに、ストレスと上手に向き合うために心がけておきたいこと等のお話をうかがう機会をいただきました。

「お腹が痛いから今日は学校を休みたい」そう子どもから告げられ、「薬を飲んだら治るから、学校へ行きなさいよ」と返したことはありませんか。その痛みはもしかしたら精神的な苦しみから来ているかもしれません。そうした場合、どう対応すればよいのでしょうか。

まずは訴えに耳を傾けることが第一歩です。例え理解し難いことであっても、主観から離れ「本人は苦しんでいるのだ」ということを念頭に置きます。そしてゆっくりとあたたかく同調しながら接し、孤立させないことが大切です。

例えるなら、ことばで伝えられない赤ちゃんのシグナルを理解しようとアンテナを立てておくように、相手の気持ちをなぞることです。

そうしながら、想いをことばに表せる環境をつくることも重要です。気持ちをことばにできることによって、ストレスの根底が何であるのかを知り、心の整理ができてきます。

そしてことばで伝えてくれた時には「そんなに苦しかったんだね」と、相手の気持ちを理解する声かけをします。

多くの物事と関わり合う社会で、ストレスと無関係に生きていくことはできません。だからこそ、まずは自分がどんなことにストレスを感じやすいのか、どうすれば少なくできたり発散できるのかを考え、上手く付き合っていく方法を探してみてください。

親しい友人や家族と、自分なりの意見や想いを率直に口にできる(話を聴いてもらえる)関係を築いておくこともおすすめします。

そして心身の健康のために、質の良い睡眠、バランスの取れた食事、適度な運動をすることも心がけてみましょう。

長谷川さんの伝えてくださる内容の一つひとつに優しさを、そしてその表情一つひとつに安心を感じる、あたたかい時間をいただきました。

CONTENTS

- ・「ストレスとの共存」 心理カウンセラー 長谷川 匡代さんにインタビュー
- ・ご存じですか?身近にある「人権」に関わること
- ・「高齢者疑似体験教室」 人権教育小集団グループ「むすびめ」さんの活動紹介
- ・「ハンセン病問題が問いかけるもの」 実践研究大会 川崎さんの講演から
- ・「武庫尋常高等小学校差別事件」 人権啓発協会 三澤事務局長

